

## エッセンシャルワーカーの不足

豊澤 幸平

今年の秋、四国に友人とゴルフ旅行にでかけ新居浜に宿泊。夕方予約した料理屋に行こうとホテルのフロントにタクシーを頼んだところ、「最近、新居浜でも運転手さん不足で夕方はタクシーが手配つきにくい。時間がかります」とのこと。三十分程、待ったが手配できず、結局料理屋に迎えにきてもらった。運転手さん不足は今では都市部にも及んでおり、東京都や神奈川県でも路線バスの路線廃止や減便が相次ぐようだ。

運輸のみならず、飲食・宿泊・介護・福祉、建設など所謂エッセンシャルワーカーの不足は、日本各地で起こっている。これに起因する廃業、倒産、また人手不足による機会損失額は日本全体で年一六兆円に上る、さらに将来を見通すと二〇四〇年には五〇〇万人が不足ということらしい。

国を守る自衛隊をエッセンシャルと位置付けるか分からないが、自衛隊でも必要ない人員を確保出来ない。防衛力は必ずしも人の数ではないが、最低限の人力がないと国の防衛もおぼつかない。

エッセンシャルという名の通り、我々一人一人の日常生活に「必要不可欠」なこれらの職種の人手不足をなんとかしないと、今後は日常生活も安心して過ごせない。深刻化するこれらの職種の人手不足を急に補うことは簡単ではない。少しでも改善を図る為に、相対的に低い給与と他の待遇改善、デジタル・IT・AI導入による生産性の向上、ロボットの活用、AI導入であぶれた人員の受け入れ、また賛成はしかねるが労働時間の規制緩和による労働供給量を増やす等が、打開策と思われる。これらとて決定的な解決とはならないだろう。

そうなると外国人労働者を増やさないと日本はやっていけない。しかしこれは悩ましいテーマである。政府は外国人政策全般の見直しに着手したが、司馬遼太郎は「日本人の精神は一寸掘ると攘夷が出てくる」、小澤征爾は「日本人は国際化や多様性の重要性を理解しているが、一方では日本のやりかたに固執する傾向にある」と危惧していたらしい。

(二〇二五年十二月)